

# 2026年3月期 決算説明資料

株式会社あいちフィナンシャルグループ  
2026年5月15日

# 目次

連結業績・配当	P2
銀行単体決算概要	P3
資金利益・預貸金利回り	P4
預金・貸出金	P5
ソリューション・預かり資産関連収益	P6
有価証券	P7
与信コストの推移・不良債権	P8
経費・ROE・自己資本比率	P9
業績予想	P10

本資料におけるあいち銀行の計数につきましては、各項目の適正な期間比較を行う観点から、以下のルールに則り算出した計数を記載しております。

- 2024年3月期、2024年3月末までの計数  
旧愛知銀行及び旧中京銀行の計数を合算
- 2025年3月期の計数  
あいち銀行の2024年4月1日から2025年3月31日までの計数と、  
2024年4月1日から2024年12月31日までの旧中京銀行の計数を合算

- 連結業績は、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益ともに増益。
- 2026年3月期決算に基づく年間配当は135円を予定。

## あいちFG連結業績

(億円)

	2025/3期	2026/3期	前年比
経常収益	1,010	1,251	241
経常利益	102	309	206
親会社株主に帰属する 当期純利益	90	218	127

## 配当の状況（1株当たり配当金）

- ◆ 2026年3月期  
第2四半期 50円 期末 85円 合計 135円 **（株式分割前）**  
※普通配当135円
- ◆ 2027年3月期（予想）  
第2四半期 15円 期末 15円 合計 30円 **（株式分割後）**  
※普通配当30円  
**（なお、株式分割を考慮しない場合の年間配当金は150円と増配予想）**

2026年4月1日を効力発生日とする株式分割（1株につき5株の割合）を行っております。

## 株主還元方針（配当政策）

収益基盤の強化に向けた内部留保を確保しつつ株主に対する還元を通して資本効率の向上を図るため、1株につき20円の年間配当を下限とし、自己株式取得についても柔軟に実施していくことを基本方針とします。  
具体的には、配当金と自己株式取得合計の総還元性向30%を目処とします。

## あいちFG連結損益

(億円)

	2025/3期	2026/3期	前年比
1 連結粗利益	498	585	86
2 資金利益	504	525	21
3 役員取引等利益	125	120	▲5
4 その他業務利益	▲131	▲61	70
5 営業経費	477	450	▲27
6 貸倒引当償却費用	12	▲22	▲34
7 一般貸倒引当金繰入額	▲18	▲22	▲4
8 個別貸倒引当金繰入額	25	5	▲20
9 偶発損失引当金繰入額	5	▲4	▲9
10 株式等関係損益	126	164	37
11 経常利益	102	309	206
12 特別損益	▲5	▲9	▲4
13 税金等調整前当期純利益	97	299	202
14 法人税等合計	6	81	75
15 当期純利益	90	218	127
16 親会社株主に帰属する当期純利益	90	218	127

# 銀行単体決算概要

FG連結

あいち銀行単体

(億円)	2025/3期	2026/3期	前年比
1 業務粗利益	482	561	79
2 コア業務粗利益	609	629	20
3 資金利益	503	① 525	22
4 うち貸出金利息	398	528	129
5 うち有価証券利息・配当金	166	178	12
6 うち預金利息	59	182	123
7 役務取引等利益	114	② 105	▲8
8 その他業務利益	▲135	③ ▲69	65
9 経費	461	④ 421	▲40
10 人件費	204	204	▲0
11 物件費	220	184	▲36
12 実質業務純益	20	139	119
13 コア業務純益	147	207	60
14 一般貸倒引当金繰入額 ①	▲18	-	18
15 業務純益	38	139	101
16 うち国債等債券損益	▲127	▲67	59
17 臨時損益	65	167	102
18 うち株式等損益	130	⑤ 168	38
19 うち不良債権処理額 ②	29	-	▲29
20 うち貸倒引当金取崩額 ③	-	20	20
21 うち偶発損失引当金取崩額 ④	-	4	4
22 経常利益	103	307	203
23 特別損益	▲6	▲14	▲8
24 法人税等合計	1	78	76
25 当期純利益	96	214	118
26 与信関係費用 ①+②-③-④	11	⑥ ▲24	▲35

## 【実質業務純益は20億円⇒139億円と大幅に増加】

### ① 資金利益525億円（前年比+22億円）

- ・貸出金利息増加129億円、有価証券利息配当金12億円増加
- ・預金利息増加123億円が資金利益を押し下げ

### ② 役務取引等利益105億円（前年比▲8億円）

- ・注力するコンサルティング関連収益は、每期順調に伸長して前年比4億円増加
- ・預かり資産関連手数料減少等により、役務取引等利益全体では減少

### ③ その他業務利益▲69億円（前年比+65億円）

- ・国債等債券損益▲67億円、前年比59億円改善

### ④ 経費421億円（前年比▲40億円）

- ・物件費36億円減少
- （合併による経費削減、統合関連費用の剥落）

### ⑤ 株式等損益168億円（前年比+38億円）

- ・政策保有株式の縮減を進める中、株式相場上昇もあり、株式の売却益が増加

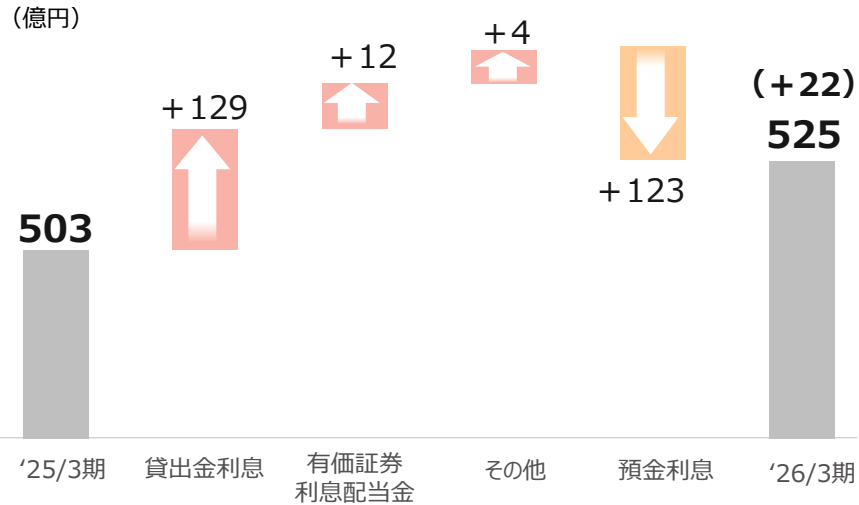
### ⑥ 与信関係費用▲24億円（前年比▲35億円）

- ・貸倒実績率の低下や破綻懸念先以下の債権残高減少により、一般貸倒引当金や偶発損失引当金が戻入

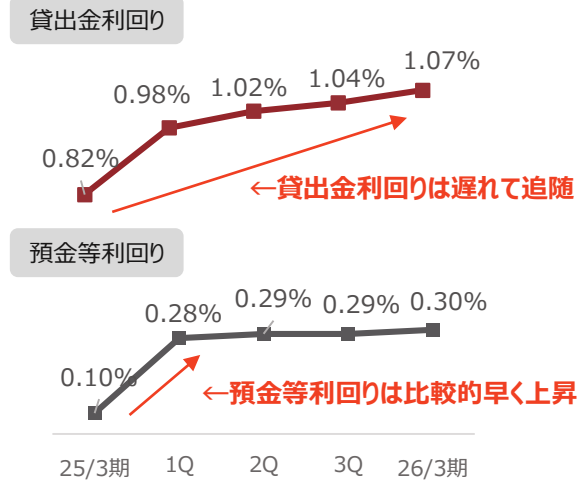
# 資金利益・預貸金利回り

- 金利上昇に伴い預金・貸出金利回りは上昇。
- 預金コスト増加が先行するも、資金利益は増加基調。

## 資金利益22億円増加



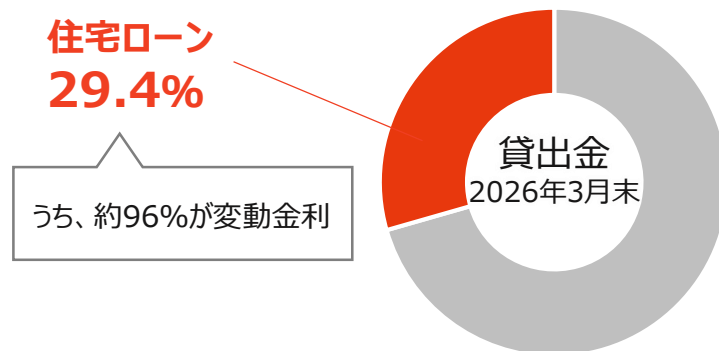
## 貸出金利回り・預金等利回り



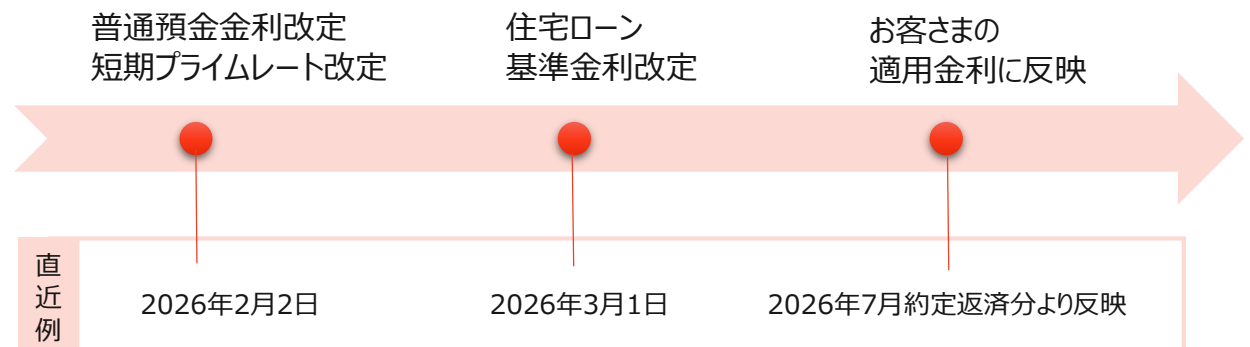
一般的に金利上昇局面では、預金利息の増加が先行し、貸出金利息の増加は遅れて追随。

- 特に住宅ローンは、金利が上昇してから実際にお客さまの適用金利に反映されるまでに数か月を要する
- 預金等利回りの上昇については、公金預金において、金利が激化していることも要因

## 貸出金全体に占める住宅ローンの割合



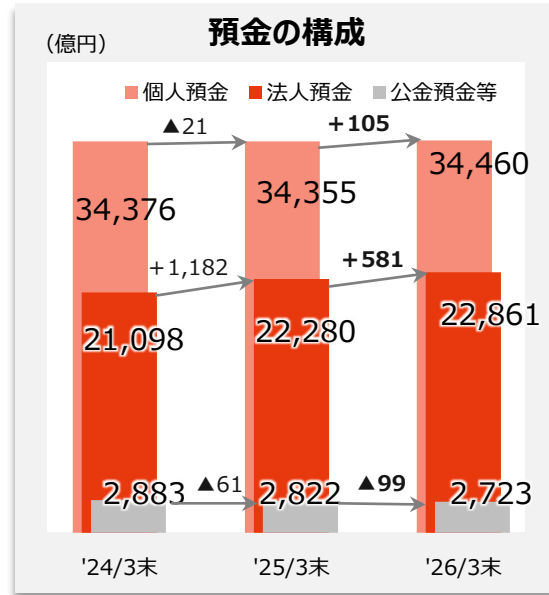
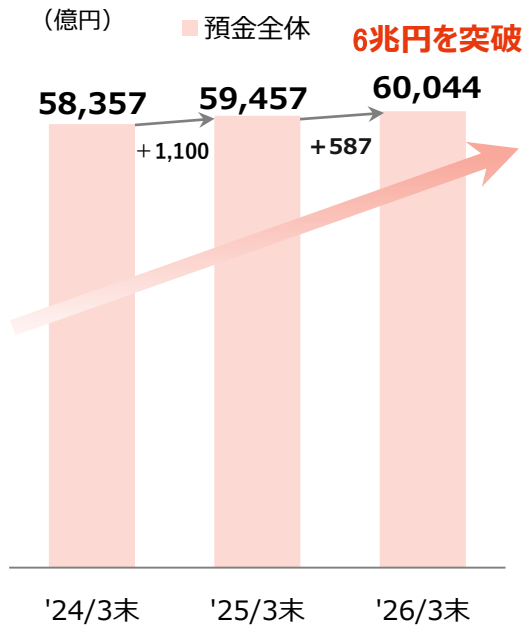
## 住宅ローン金利への反映イメージ



# 預金・貸出金

- 法人預金、個人預金が順調に増加し、預金残高は6兆円を突破。
- 地域のお客さまの資金ニーズに応え、貸出金残高も順調に増加。

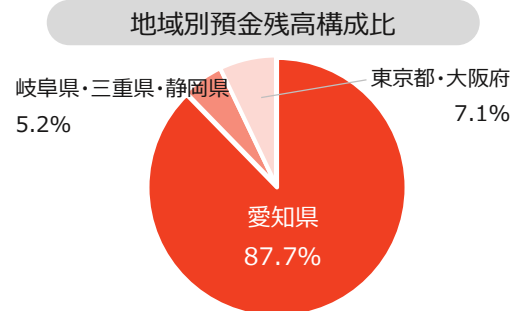
## 預金残高（末残）の推移



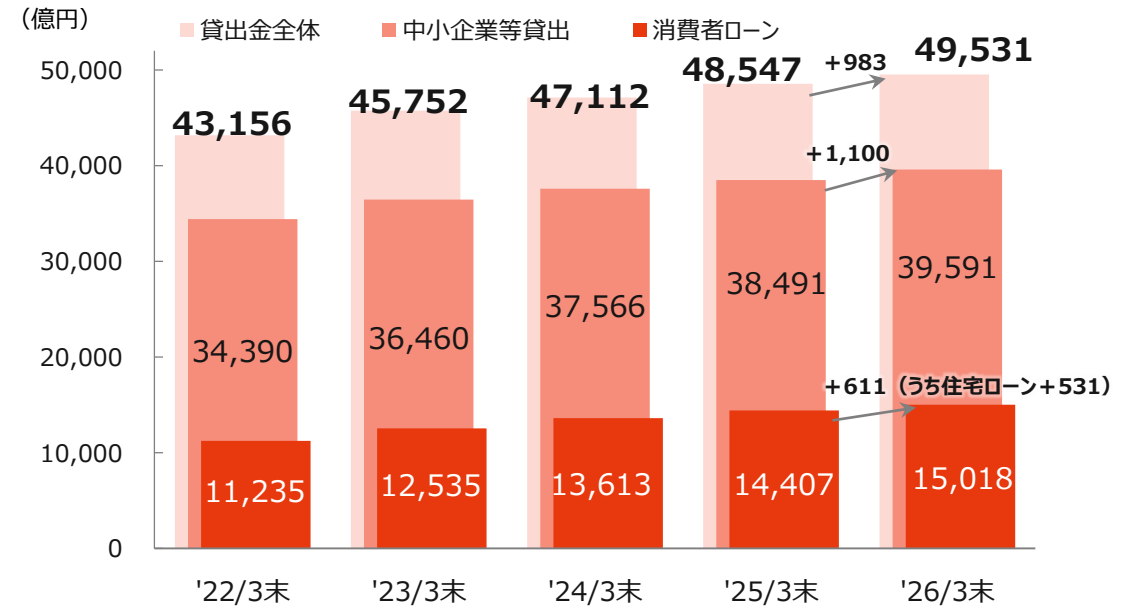
## 地域別の預金残高（参考）

(億円) 2026/3末

1	愛知県	52,653
2	岐阜県・三重県・静岡県	3,100
3	東京都・大阪府	4,287
4	合計	60,044



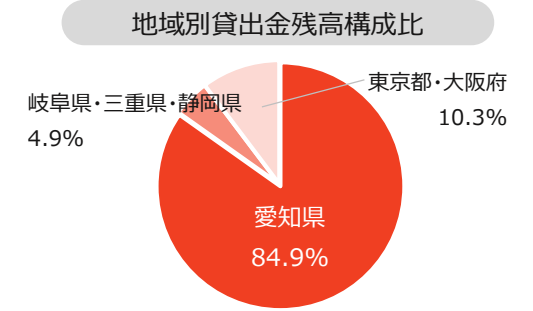
## 貸出金末残の推移



## 地域別の貸出金残高（参考）

(億円) 2026/3末

1	愛知県	42,034
2	岐阜県・三重県・静岡県	2,410
3	東京都・大阪府	5,084
4	合計	49,531



# ソリューション・預かり資産関連収益

FG連結

あいち銀行単体

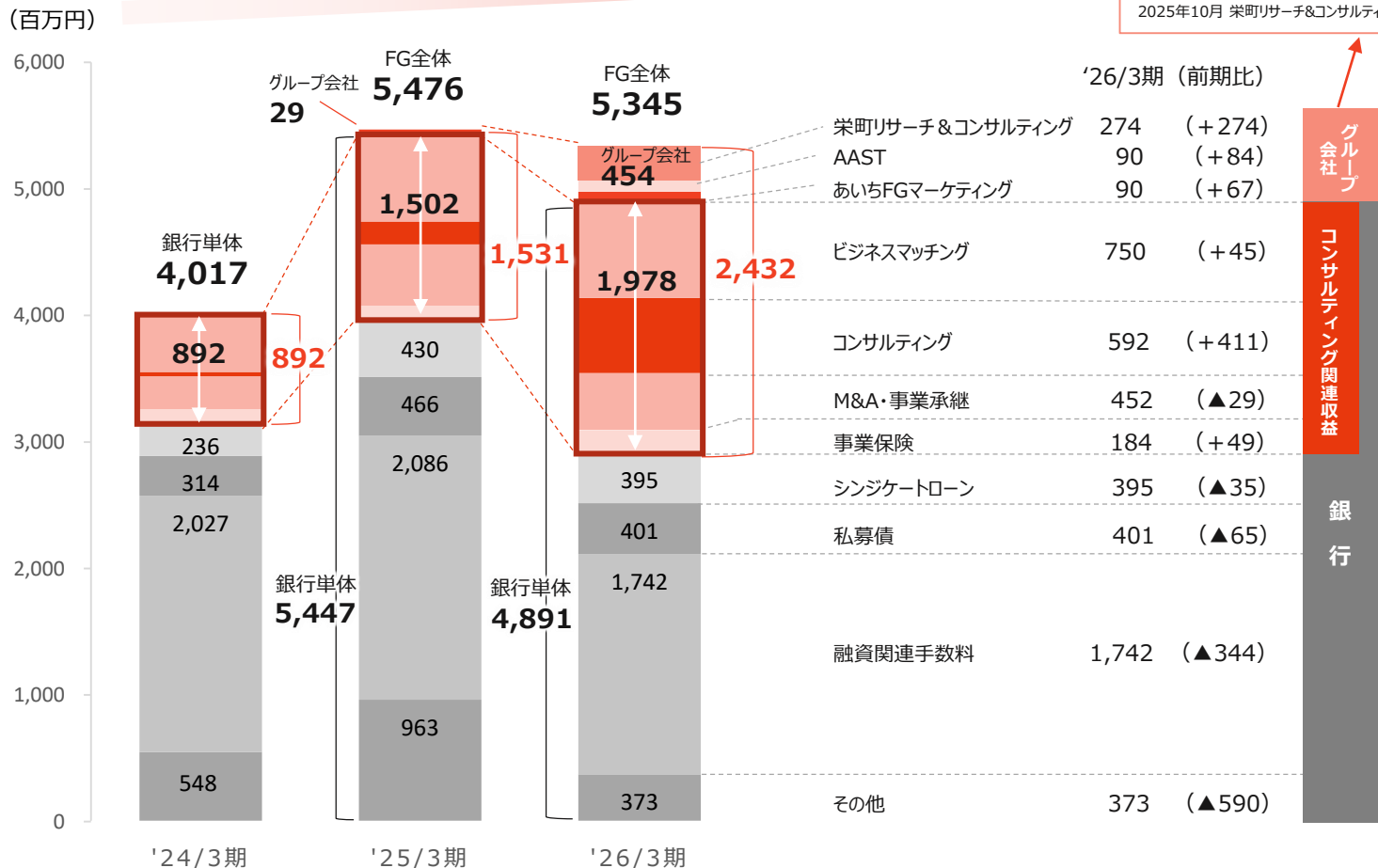
- コンサルティング関連収益は順調に増加。
- グループ全体でソリューション収益を確保、預かり資産は投信が堅調。

## あいちFG全体のソリューション収益

コンサルティング・ソリューション型ビジネスモデルの深化

グループとして提供するソリューションメニューも順調に増加

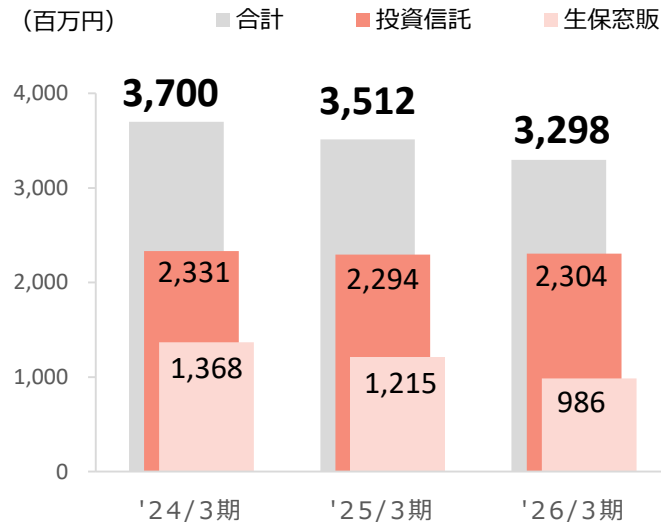
2024年4月 AAST グループイン  
2024年8月 あいちFGマーケティング設立  
2025年10月 栄町リサーチ&コンサルティング発足



※グループ会社の収益は、あいち銀行との連携による収益を単純合算しています。

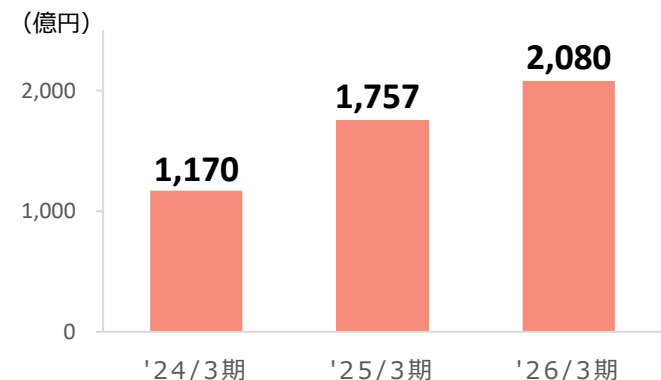
## 預かり資産関連手数料

あいち銀行



## 投資信託残高

あいち銀行



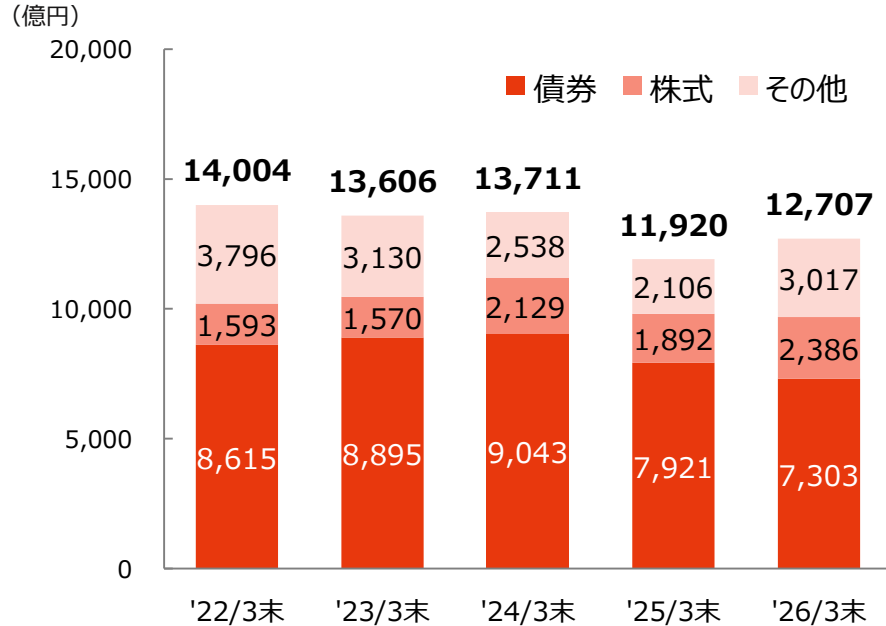
# 有価証券

FG連結

あいち銀行単体

- 有価証券は金利・市場環境を考慮し、保有残高やデュレーションをコントロール。
- 株式の評価益拡大により評価損益は増加。

## 有価証券残高



デュレーション(年)		'22/3	'23/3	'24/3		'25/3	'26/3
旧愛知銀行	円貨建債券	6.74	7.04	6.82	あいち銀行	3.46	2.65
	外貨建債券	2.57	1.85	1.77		1.57	1.68
旧中京銀行	円貨建債券	5.21	4.85	4.77			
	外貨建債券	5.74	2.98	1.34			

※あいち銀行のデュレーションはアセットスワップによるヘッジ効果勘案後の数値

## 有価証券評価損益

(億円)

	2025/3期	2026/3期	前年比
1 評価損益合計	692	1,375	683
2 株式	960	1,476	515
3 債券	▲378	▲572	▲194
4 外国債券	▲2	▲2	0
5 その他	112	474	362

<参考> 2026年3月末のアセットスワップ：想定元本1,150億円、評価益+224億円

## 有価証券関連損益

(億円)

	2025/3期	2026/3期	前年比
1 有価証券利息配当金	166	178	12
2 投信解約損益	6	-	▲6
3 有価証券関係損益	3	100	97
4 国債等債券損益 (債券5勘定戻)	▲127	▲67	59
5 株式等損益 (株式3勘定戻)	130	168	38
6 合計	169	279	109

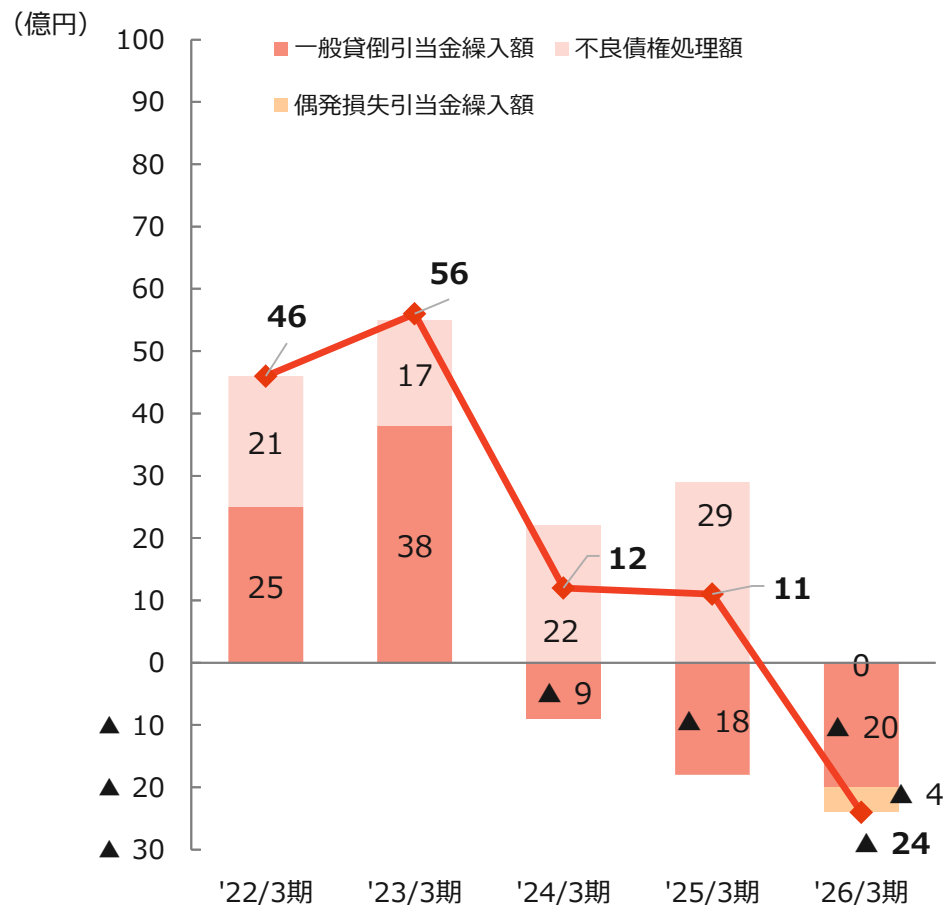
# 与信コストの推移・不良債権

F G 連結

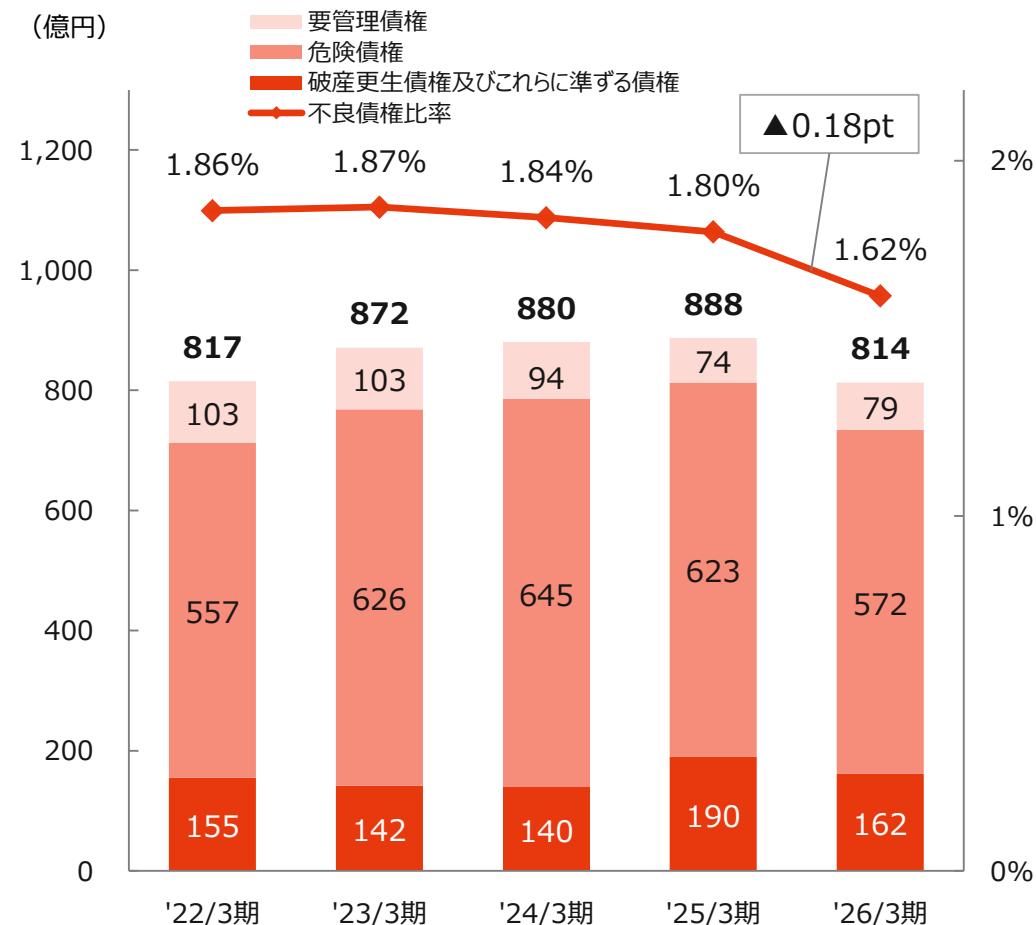
あいち銀行単体

- 貸倒実績率の低下により貸倒引当金戻入益を計上、与信コストは前年比で減少。
- 不良債権比率も改善し、資産健全性を安定維持。

## 与信コスト推移



## 不良債権比率と不良債権の状況



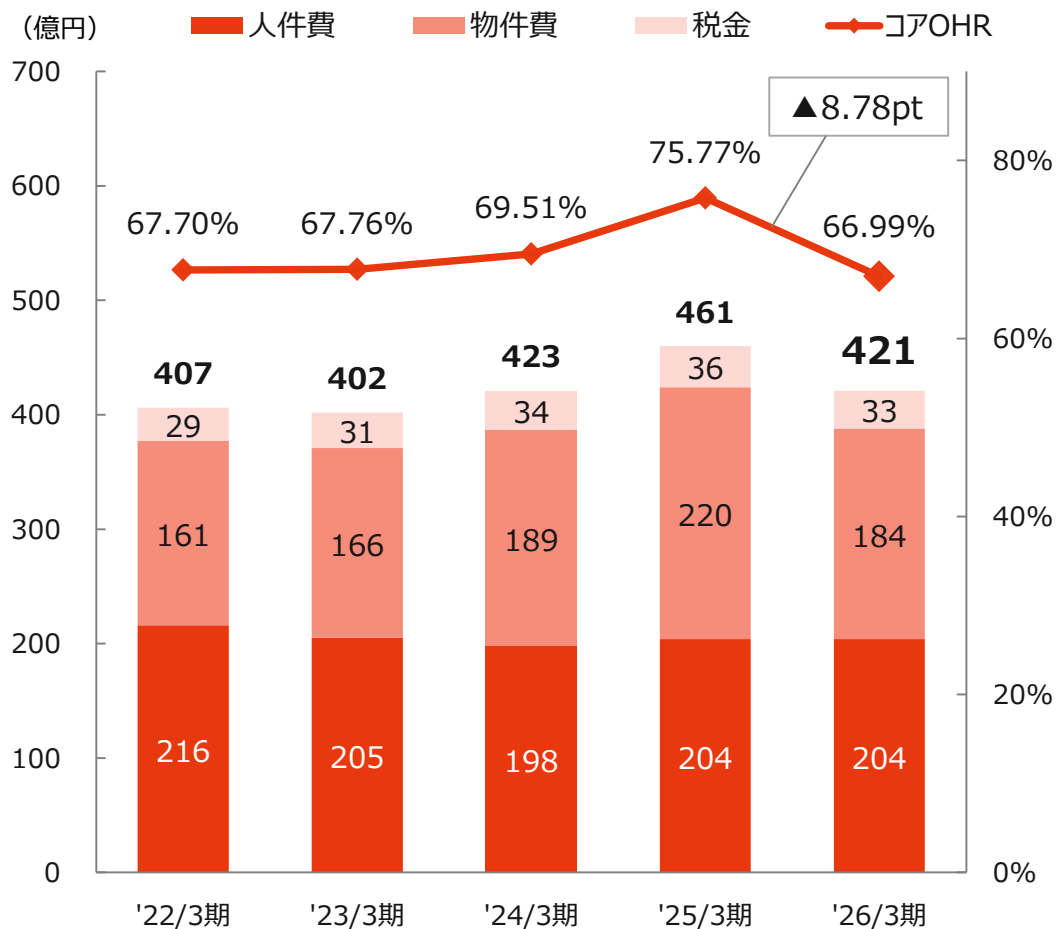
# 経費・ROE・自己資本比率

FG連結

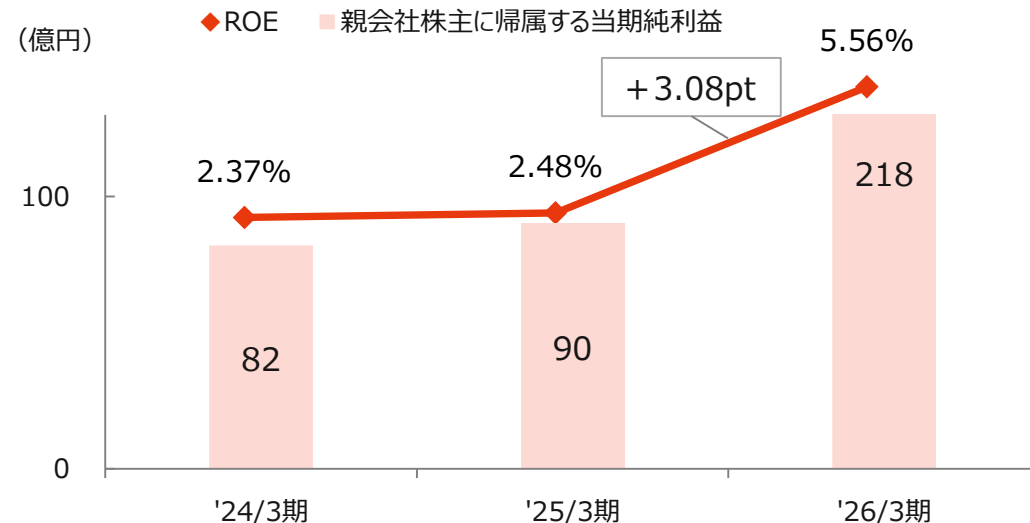
あいち銀行単体

- 統合関連費用の剥落等により経費は減少、コアOHRも改善。
- ROEは上昇し、自己資本比率は安定。

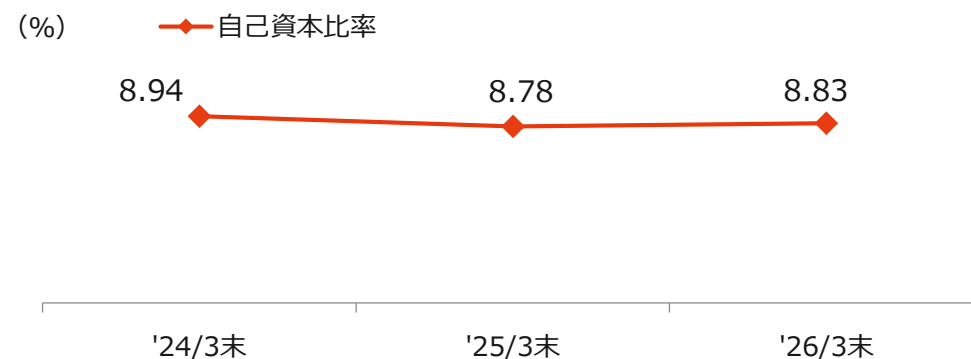
## 経費・コアOHRの状況（銀行単体）



## 親会社株主に帰属する当期純利益とROEの状況（FG連結）



## 自己資本比率の状況（FG連結）



# 業績予想

FG連結

あいち銀行単体

- 2027年3月期はFG連結で経常利益280億円、親会社株主に帰属する当期純利益230億円を予想。
- あいちFG第2次中期経営計画の最終年度である2028年3月期の計数目標を変更。FG連結当期純利益270億円以上、ROE6.0%以上を目指す。

## FG連結

(億円)

	2026/3期	中間期予想	2027/3期 予想	前年比
1 経常利益	309	140	280	▲29
2 親会社株主に帰属する 当期純利益	218	130	230	11

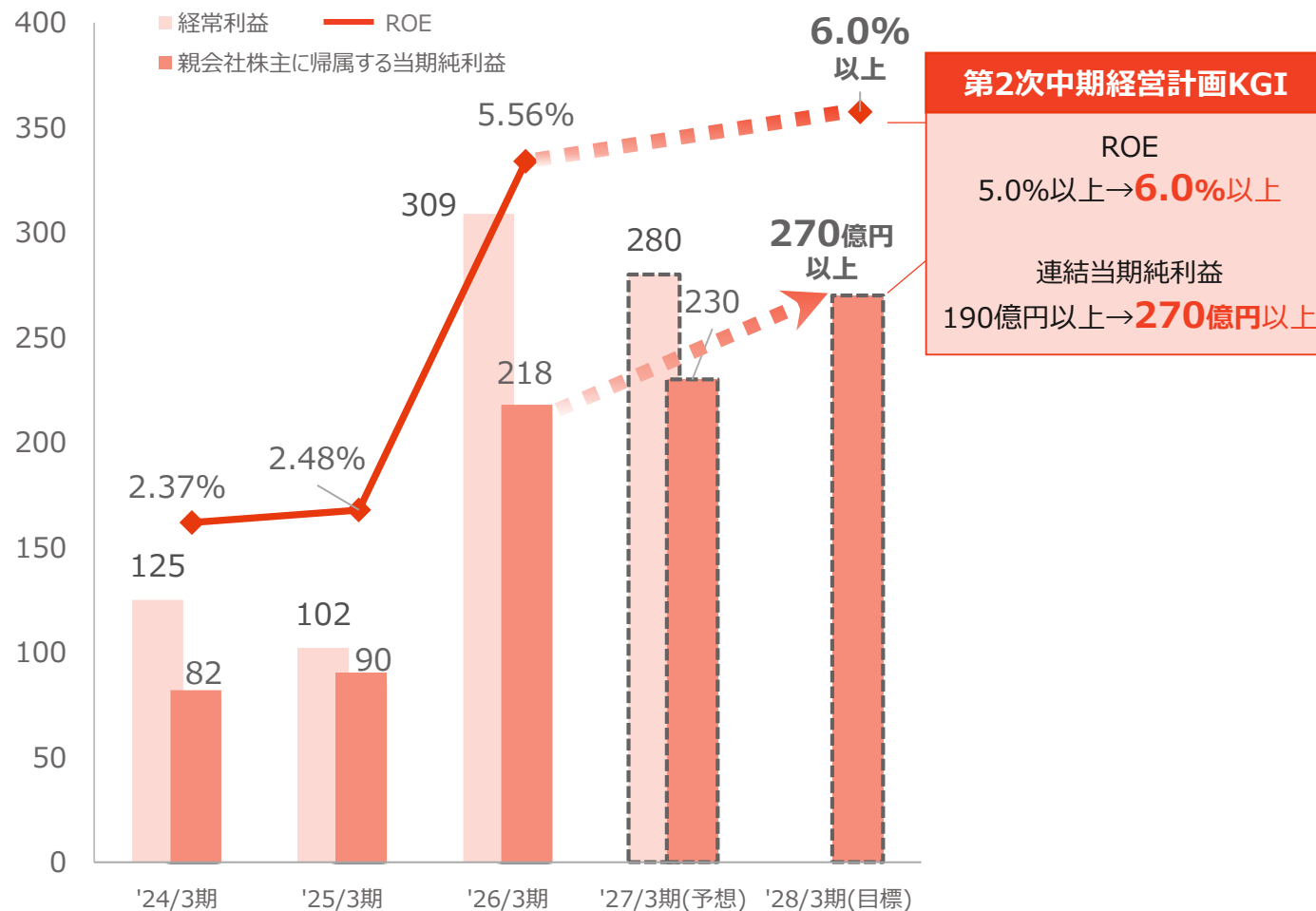
## 銀行単体

(億円)

	2026/3期	中間期予想	2027/3期 予想	前年比
1 コア業務純益	207	85	180	▲27
2 経常利益	307	125	265	▲42
3 当期純利益	214	120	220	5

## FG連結

(億円)



本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は経営環境の変化等により、異なる可能性があることにご留意ください。

<お問合せ先>

株式会社あいちフィナンシャルグループ グループ経営企画部

TEL : 052-262-6512

FAX : 052-262-6517

URL : <https://www.aichi-fg.co.jp/>